

4 学年

実践例

「アップとルーズで伝える」

アップとルーズ記事を書こう！

《学習計画表》

全8時間

1. 学習の見通しをもとう(1時間)



◎動画をみて、わかることを伝え合おう。
「アップとルーズで伝える」を読もう。

2. 「アップとルーズで伝える」を読んで (6時間) わたしのアップとルーズ記事を書こう！



- ◎ 写真をてがかりに、文章を三つに分けよう。
- ◎ 4・5段落を読み、アップとルーズのとくちょうを見つけよう。
- ◎ 文章全体から をさがそう。
- ◎ なぜ、7・8段落は必要なのか、考えよう。

3. 学習をふりかえろう！(1時間)



- ◎◎ を使って、アップとルーズ記事を書こう。
- ◎アップとルーズ記事を読み合い、学習をふりかえろう。

第4学年 国語科学習指導案

1. 単元名「段落どうしの関係をとらえ、説明のしかたについて考えよう」

教材名「アップとルーズで伝える」(光村図書四下)

2. 本単元で付けたい力

- | | |
|---|-------------|
| ○ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を <u>考え、文章を読むこと。</u> | 【C(1)イ】 |
| ○ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 | 【C(1)エ】 |
| ○ 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。 | 【伝国(1)イ(ウ)】 |

3. 単元について

単元観
<p>○本教材は、普段よく目にしていくメディアである、テレビの映像技法を中心に述べたものである。子どもにも身近に感じられる内容であり、実際に確かめやすい内容である。文章構成としては、アップとルーズについて対比的に分かりやすく述べられており、キーセンテンスやキーワードもとらえやすい。対比的な説明をはじめ、さまざまな工夫をしている筆者の説明のしかたについて考えさせることで、論理的な文の書き方を学ぶことができる。</p> <p>○本単元では、「新聞での『アップ』と『ルーズ』の使われ方を見つけ、記事を説明する上でのそれぞれのよさを比べて報告し合う」という言語活動を位置づけた。「アップ」と「ルーズ」を対比して述べることで、二つのものの違いがはっきりするという表現の工夫を用いると、話したり書いたりするときにも、自分の伝えたいことを分かりやすく伝えることができるということを感じさせたい。単元終末には、本文をまねて、対比を使った新しい段落を書き加える。ここで学習した文章構成や表現の工夫は、次単元の「クラブ活動リーフレット」を作ろう」に生かせるようにしたい。</p>
児童観
○省略
指導観
<p>○第1次では、実際に電子教科書でサッカーの試合映像を見せ、「何回映像が切り替わる？」と問い、画面が切り替わった回数に注目させ、教材に対する関心を持たせたい。その中で、児童とともに、「アップとルーズで伝えるのは何のためだろう。」という課題を共有したい。</p> <p>○第2次では、まず写真と各段落の内容を対応させ、はじめ・中・おわりの構成をおさえる。次に、アップとルーズそれぞれの特徴をおさえる。その際、教材文のアップの文章とルーズの文章を色分けし、対比関係であることに着目させる。そして、全体の文章構成でも対比的な表現の工夫がされていることに気づかせる。対比の効果を考える授業では、色分けなどで、視覚的にも違いが分かるようにしたい。本時は、6, 8段落はどう違うのか。7段落は必要なのかと問うことで、7段落の役割を考える。「7段落は必要なのか」と問うことで、自己決定の場を設け主体的な思考を促したい。学習全体を通して児童自ら判断する場を仕組むが、自己判断が出来ないときには、他の児童との対話・交流の中で自分の意見を持てるようにしたい。次に、アップとルーズそれぞれの特徴をおさえる。その際、教材文のアップの文章とルーズの文章を色分けし、対比関係であることに着目させる。そして、全体の文章構成でも対比的な表現の工夫がされていることに気づかせる。また、7・8段落を読み、その役割について考える。</p> <p>○第3次では、新聞の記事におけるアップとルーズの事例を、本文をまねて書く。その際は、本単元で学習した表現の工夫を生かして取り組ませる。</p>

4. 単元構想（単元計画と評価）

単元目標

- それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読むことができる。
- 写真と対応した部分に注意して読み、「アップ」と「ルーズ」それぞれの特徴を整理することができる。

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・目的に応じ、段落相互の関係を考えながら、文章を読もうとしている。	・それぞれの段落の役割を、本文の内容から理解している。 【C(1)イ】 ・写真と本文の対応関係を理解している。 【C(1)エ】	・接続語が文と文、段落と段落との意味のつながりに果たす役割を理解している。 【伝国(1)イ(ク)】

指導と評価の計画（全8時間）

		学習内容	評 価				
			関	読	言	評価規準	評価方法
第一 次	1	○電子教科書を見て、アップとルーズで伝えるのは何のためか。という課題を共有する。 ○全文を通読する。 ○学習課題を設定し、学習の見通しを持つ。	◎			・単元終わりの「アップとルーズ記事」に興味・関心を持ち、文章を読もうとしている	観察 ノート
	2	○写真と各段落の内容を対応させ、はじめ・中・おわりの構成をおさえ、要点まとめをする。		◎		・写真と文章の対応関係に着目し、はじめ・中・おわりの構成をおさえている。 【C(1)エ】	ノート 発言
第二 次	3	○4・5段落の内容を表にまとめ、アップとルーズの特徴について考える。		◎		・文章の対応関係に着目し、アップとルーズの特徴が対比して書かれていることに気付いている。 【C(1)イ】	ノート 発言
	4	○文章全体から、筆者の工夫として対比が使われているところを探す。		◎		・文章の対応関係に着目し、全文から対比が使われているところを見つけている。 ・接続語に着目し、段落相互の対比の関係をつかんでいる。 【C(1)イ】	ノート 発言
	5 本 時	○7・8段落を読み、その役割について考える。		◎		・7・8段落を読んで、筆者の伝えたいことをつかみ、7・8段落の必要性について考えている。 【C(1)イ】	ノート 発言
	6 7	○対比を用いて、新聞記事における「アップとルーズ」の事例を作文する。	○		◎	・対比を用いて、記事を書いている。 ・「アップとルーズ記事」を仕上げている。 【伝国(1)イ(ク)】	ノート 記事
第三 次	8	○「わたしのアップとルーズ記事」を読み合い、学習を振り返る。		◎		・友達の「アップとルーズ記事」を読み、感じたことを伝え合っている。 【C(1)イ】	行動観察 記事

5. 本時の指導 (5/8)

(1) 目標

○7・8段落を読んで、筆者の伝えたいことをつかみ、7・8段落の必要性について理解することができる。

(2) 評価規準

B 概ね満足できる状況

◆筆者の伝えたいことを捉え、7段落の必要性を理解している。

・筆者の言いたいことは8段落です。それを伝えるためにも7段落は必要です。なぜなら、アップとルーズはテレビ以外でもあるからです。

A 十分満足できる状況

◇筆者の伝えたいことを捉え、8段落の内容について理解し、7段落の役割について理解している。

・筆者の言いたいことは8段落に書かれています。それを伝えるために7段落は必要です。なぜなら、新聞の写真を付け加えることにより、アップとルーズのことが詳しく伝わるからです。

(3) 本時における研究主題の追究

本時における深い学び

段落相互の関係を捉え、筆者の文章構成の工夫に気づくこと。

【主体的な思考を促す工夫】

・7段落の必要性を問うことで判断を迫り、子どもたちの主体的な思考を促す。

《軸となる本時の言語活動》
2つの段落の内容を比較検討することで、質的な相違やその役割について考える。

【板書の工夫】

・1段落から8段落、それぞれの役割を黒板に提示することで、事例とまとめの関係に気付かせる。

(4) 展開

	学習活動	○主な発問や指示・児童の姿	◎支援◆評価（評価方法）
つかむ (5分)	1 既習の課題を振り返る。 2 挿絵を並べ替える。	1段落から8段落、それぞれの役割の既習事項を確認する。 ○挿絵はそれぞれ何段落の挿絵ですか。どうして6段落の挿絵がないのかな。 ・6段落は、「このように」とあるのでまとめになっているから、挿絵がない。 ○6段落と8段落は両方ともまとめですが、何が違いますか。	◎1段落から8段落、それぞれの役割を黒板に提示することで、事例とまとめの関係に気付かせる。 ◎4段落5段落の挿絵や、前時の表を掲示し、6段落の役割に気づかせやすくする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>本時の課題 中谷さんの伝え方の工夫を考えよう</p> </div>			
考える (15分) ・学び合う (15分)	3 段落の構成を考える。 4 筆者の伝えたいことをとらえる。 5 7段落の必要性について考える	・6段落は4・5段落の事例のまとめ。8段落は全体のまとめや伝えたいことになっている。 ○8段落にある筆者の伝えたいことを視写しましょう。 ○6と8でまとめをして伝えたいことを書いてあるなら7段落はなくてもいいね ・なくてよい。言いたいことは伝わったから。 ・あったほうがいい。新聞の例があった方が分かりやすい。 ・ないといけない。だって、アップとルーズの他の例だから ・7段落があるから8段落で伝えたいことがより、強調される。 ・8段落のためにどの段落も必要。 ○7段落がある場合とない場合で読み比べてみましょう。 ・7段落は新聞以外のことについて書いてある。 ・7段落があればテレビ以外のことでも同じということがわかる。	◎できる児童が少ない場合は、ペアで考えさせ発表させる。 ◎7段落と8段落の役割を考え、複数の事例の大切さに気付かせる。 ◆7・8段落を読んで、筆者の伝えたいことをつかみ、7・8段落の必要性について理解することができる。(発言・ノート)
まとめる (10分)	6 学習の振り返りをする。 7 次時の課題を知る。	○6・8段落の違いは何か、7段落の役割をまとめる。 ・筆者の言いたいことは8段落です。それを伝えるためにも7段落は必要です。なぜなら、アップとルーズはテレビ以外でもあるとわかるからです。	◎振り返りを書きづらい児童には黒板を見て、振り返りを書かせる。

中谷さんの伝え方の工夫を見つけよう！～4年B組「アップとルースで伝える」11/14(火)

6. 本時の様子

(1) 中心活動の様子

①学習範囲の大まかな内容を捉える



挿絵はそれぞれ本文のどこの段落にいれるといいかな



7段落は必要だともいます。わけは、6段落までは「テレビ」のことだけど7段落は「新聞」のことを言っているからです。

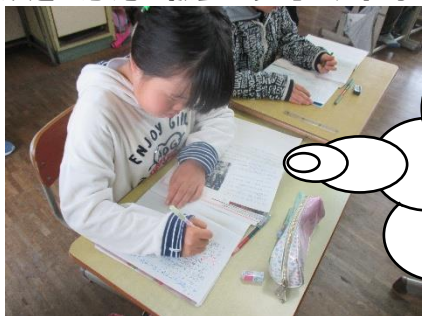
②本文の内容を詳しく読みとる



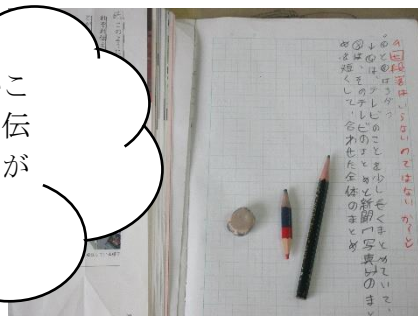
6段落がまとめになっていることを確認した後、「7段落は必要か」と問い、自分の考えを持たせ、本文の叙述をもとに考え合います。



③友達の見や板書を参考に、本時の授業を振り返る



中谷さんの一番言いたいことは8段落です。それを伝える工夫として「対比」が使われています。



(2) 本時最終の板書

